

編集後記

雑誌名	表現における越境と混淆
巻	36
ページ	340
発行年	2005-09-01
その他のタイトル	Afterword
URL	http://doi.org/10.15055/00005256

編集後記

私事にわたるが、若いころ、建築家になりたいと思っていた。そこそこ、こぎれいな図面もかいていたと思う。じつさい、バイト先の設計事務所からは、ていねいで品もよいと、評価されていた。それが、百八十度かわつたのは、文章を書いた時である。君の書くものは下品だ、悪趣味だと言われ、私はうれしくなった。人の気持ちを、さかなでする。建築だと發揮できないそんな力が、自分の文章にはある。この発見が、私に建築をすてさせ、文転させたのである。

越境と混淆。ジャンルをこえ、文化をこえることが、表現者に何をもたらすか。その諸相が、さまざまな角度からあきらかにされる論集であればと、ねがっている。